長期戦略:テーマ　「ICT による教育・学修支援」

提出日　2022 年 8 月 24 日

担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者（統轄部署）	小谷高等教育推進センター長（高等教育推進センター）	実施計画の担当部署	高等教育推進センター

1. 実施計画

実施計画（タイトル）		取組開始	達成状況確認年度	学部・研究科での取組み有/無	帳票
1-(10)-⑤	LMSの利用促進	2019 年度	2024 年度	必要なし	不要

内容

2009 年度からの新中期計画において導入された LUNA(LMS)は、2010 年秋学期からの運用開始以降、着実に利用率を高めてきており、現在は大学の開講科目のおよそ半数になんらかのコンテンツが掲載され、専任教員の 8 割がシステムにアクセスをしているなど、本学の学習支援システムとして確立しつつある状況にある。これまでも、クリッカーや授業支援ボックス、ポートフォリオシステムとの連携を図り、普及に努めてきたが、継続した取り組みを行う。特に、LUNA においては、2010 年の運用開始以来、過去のコンテンツを保存しており、利用する教員にとっては、ティーチングポートフォリオとしての役割も担っている状況にある。

今後の課題としては、教員への働きかけはもちろんであるが、スマートフォンへの対応について現在のレスポンシブ対応のみでなくネイティブアプリ対応や、更なる機能拡張を含めた検討を進めるとともに、今後予定されている 2023 年度のポータルへの統合を見据えた準備を進める。

また、別の実施計画として、情報化戦略本部が担当する「各種入試合格者等入学前学生への利用者 ID 付与」を行うことになれば、入学前教育のプラットフォームとしての LMS の利用用途は広がる。

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	LMS を利用する大学開講授業科目の比率	履修者数0の科目をのぞいた代表科目を分母とし、コンテンツが掲載されている科目数を分子とする。
指標2	LMS を利用する専任教員の比率	4 月 1 日の専任教員数を分母とし、システムにアクセスした専任教員数を分子とする。
指標3	LMS を利用する学部生の比率	5 月 1 日時点の在籍学部生数を分母とし、システムにアクセスした学部学生数を分子とする。

目標1＜指標1＞ LMS を利用する大学開講授業科目の比率

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
目標	51%	52%	53%	57%（2024 年度） 60%（2027 年度）		
実績	56.1%	85.7%	85.5%			

目標2＜指標2＞ LMS を利用する専任教員の比率

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
目標	80%	82%	84%	86%		
実績	88.4%	100%	100%			

目標3＜指標3＞ LMS を利用する学部生の比率

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
目標	95%	95%	95%	95%		
実績	94.9%	98.6%	98.9%			

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
LMSの利用促進	策定段階	スマートフォン対応導入 アプリ導入 既成コンテンツ導入検討	（既成コンテンツ導入） （サーバリプレース）	ポータル統合に向けた検討開始	ポータル統合準備	ポータルシステムへの統合
	2023 年 3 月末段階	サーバリプレース 既成コンテンツ導入検討	（既成コンテンツ導入） システム改修	ポータル統合（システムリプレース）に向けた検討開始 アプリ導入検討	ポータル統合（システムリプレース）準備	ポータルシステムへの統合（システムリプレース） アプリ導入
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	－
	策定段階					
	2023 年 3 月末段階					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階					
	2023 年 3 月末段階					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	－
	策定段階					
	2023 年 3 月末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費　単位:万円	2019 年度　承認	2020 年度　承認	2021 年度　承認	2022 年度　承認	2023 年度　承認	2024 年度	左記以降
非公開							
人員・人件費　単位:万円	2019 年度　承認	2020 年度　承認	2021 年度　承認	2022 年度　承認	2023 年度　承認	2024 年度	左記以降
非公開							

４．進捗状況・得られた成果

2019 年度	従来から実施している LUNA 講習会（主に操作方法を説明）に加えて、授業での活用方法を中心とした LUNA 利活用研修をワークショップ形式で実施した。
2020 年度	新型コロナウィルスの影響により、多くの授業が、オンラインおよびオンデマンド型授業で提供されることとなり、結果として LMS の利用が増加することとなった。 一方、対面授業を補完するためのツールとして位置付けてきた LUNA がオンライン授業の主体的役割を果たすこととなったため、想定以上の利用がありピーク時には過負荷によるシステム停止を招いた。
2021 年度	春先に 4 回に渡ってシステムダウンが発生したが、サーバーへの負荷軽減策を講じたり、データベースのメンテナンスを実施するなどして凌いだ。夏にはサーバーを学外に移設することで大幅にパフォーマンスが向上し、以降は安定したサービスを提供した。 授業のオンライン化にともない課題・レポートが増加したことに対応し、秋には論文類似性チェックツールである Turnitin との連携を開始した。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

５．今後の課題及び方向性

2019 年度	アプリ版は利用できる機能が一部に限定されるなど運用上の懸念があるため、2020 年度の導入は見送り、2023 年度のシステムリプレースに合わせて検討する。なお、既にレスポンシブ対応版を導入しているため、スマートフォンでの利用にも適した画面表示となっている。 教員向けの研修やハンドブックの見直しなどにより、利用促進を図っていく。
2020 年度	2020 年度はこれまでに寄せられている要望の中で緊急度・優先度が高いものについてシステム改修を行う。改修内容は 2019 年度に決定したが、オンライン授業の円滑な実施を優先するために、改修内容および改修時期の見直しも検討する。 また、2023 年度のリプレースに向けた検討を 2021 年度から開始する。
2021 年度	過負荷によるシステム停止を回避するため、2021 年 8 月に、サーバをデータセンターに移設するほか、システム増強などを行って、過負荷への対応を実施する。 今後の中長期的なリプレース計画の立案については、今後情報化改革本部のもとで検討予定。
2022 年度	新 LMS の企画・開発は情報化推進機構を中心に進められている。 Turnitin は 22 年度に入り、学部からも説明会開催の要請があるなど関心が高まっている。類似性のチェックだけでなく、採点、フィードバックも簡易に行えることから、論文、レポート等の盗用抑止だけでなく、教員の負担軽減、学生の学習満足度向上につながることを期待している。
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	LMS の利用促進に伴うスマートフォン対応の必要性を認めます。ただし、概算費用は保留とします。ライセンス購入の具体的な内容について、将来構想推進 WG での承認を得た上で、予算外申請してください。
2019 年度	LMS の利用促進に伴うシステム改修費用を認めます。
2020 年度	—
2021 年度	—
2022 年度	—
2023 年度	

7. Total Review の結果

【フェーズⅠ(2019～2021)】

レビュー結果	可　否	備　考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・コロナによるオンライン授業の活用によって、利用率が大幅に向上した。今後、操作上の改修要望等を受け付けていくことで、より使いやすいシステム構築を行う。	継続 ・ 廃止	・ICT を活用した授業担当者への支援策の検討と充実(動画撮影スタジオ設置、サポート体制の拡充等) ・LMS(LUNA)の中長期的なリプレース計画の立案 ・オンライン化に伴う授業支援等のルールの大幅な見直し(印刷配布から LMS 上での配布等)

【フェーズⅡ(2022～2024)】

レビュー結果	可　否	備　考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	